

# 研究課題名：冠動脈バイパス術（CABG）において 内視鏡下 No Touch SVG 採取の検討

このたび当院では、上記で入院された 42－90 歳の患者さんの電子カルテデータ（以下に提示）を用いた下記の医学系研究を、当院倫理委員会の承認ならびに病院長の許可を得ました。

福岡徳洲会病院倫理委員会ホームページ：<https://www.f-toku.jp/guide/committee.php>

## 【研究目的】

冠動脈バイパス術（CABG）で使用される大伏在静脈グラフト(SVG)は、汎用性が高く操作性に優れているが長期開存性に劣るという欠点があります。しかし、SVG を周囲脂肪組織と一塊に採取する No Touch SVG の優れた長期開存性が報告され、多くの施設で導入されています。しかしこの採取法では創合併症の頻度が高いという問題点があり、適応拡大には至っておりません。

当科では以前より、創治癒に有効とされる内視鏡下 SVG 採取を行っており、No-Touch SVG を内視鏡下に採取すれば、長期開存性と創合併症軽減の両立が可能ではないかと考え、2019 年 3 月より開始しています。

今回この内視鏡下 No Touch SVG 採取の早期成績を検討したいと考え、調査を行いました。

## 【対象となる方】

2019 年 9 月 1 日～ 2021 年 12 月 31 日までの間に虚血性心疾患で入院し、施行した C A B G で内視鏡下 SVG 採取を行った患者さん

## 【収集したカルテデータ】

術中因子（採取時間、CABG の吻合枝数）、

術後因子(手術死亡、病院死亡、合併症発生率、グラフト開存率、入院期間)

この研究を実施したことによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。

また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まない患者さんは、その旨を「お問い合わせ」の連絡先までお申し出下さい。

## 【お問い合わせ】

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

福岡徳洲会病院 心臓血管外科

副院長 片山雄二

電話番号：092－573－6622（代）

（月）～（金） 9：00～17：00